

平成 30 年 度
九州大学大学院理学府修士課程
学 生 募 集 要 項
(第 2 次)

地球惑星科学専攻



1. 募 集 人 員

専 攻	募集人員	専 門 分 野 等	
		専 門 分 野	研究グループ
地球惑星科学専攻	若干名	流体圏・宇宙圏科学	太陽地球系物理学 宇宙地球電磁気学 大気流体力学 気象学・気候力学
		固体地球惑星科学	地球深部物理学 地球内部ダイナミクス 岩石循環科学 地球進化史 古環境学 観測地震・火山学
		太陽惑星系物質科学	惑星系形成進化学 有機宇宙地球化学 無機生物圏地球化学 地球惑星物質科学 地球外物質学
		地球惑星博物学	地球惑星博物学

2. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者。ただし、本学府修士課程にすでに合格している者の出願は認めません。出願前に入学辞退届を提出した者はこの限りではありません。

- (1) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 83 条に定める大学の卒業者及び平成 30 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 30 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育制度における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成 30 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本学府における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本学府が個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 30 年 3 月 31 日までに 22 歳に達した者
- (11) 平成 30 年 3 月 31 日までに次のいずれかに該当する者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと認められた者
 - ① 学校教育法第 83 条に定める大学に 3 年以上在学した者

- ② 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
- ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者

3. 出願資格の事前審査

出願資格(9),(10)又は(11)により出願しようとする者は、願書を受理する前に出願資格の有無に関する審査を行いますので、次により書類を取りそろえ、事前審査受付期間内に理学部等事務部学生係へ提出してください。(郵送の場合は、必ず書留郵便とし、封筒表面に「事前審査申請書類在中」と朱書してください。)

(1) 事前審査に必要な書類

出願資格(11)により出願しようとする者

- ① 出願資格事前審査申請書（本学府所定の用紙を使用してください。）
- ② 出身大学長（学部長）が発行する成績証明書
- ③ 推薦書（本学府所定の用紙に学部長、学科長等が記入の上、厳封）
- ④ 志望理由書（A4判用紙1枚（1,000字程度）、博士後期課程進学の有無も記入してください。様式自由。）
- ⑤ 出願資格事前審査結果通知用封筒（封筒（長形3号）に宛先を明記し、郵便切手82円分を貼ってください。）

出願資格(9),(10)により出願しようとする者

- ① 出願資格事前審査申請書（本学府所定の用紙を使用してください。）
- ② 学校教育等履歴書（本学府所定の用紙を使用してください。）
- ③ 当該学校等の成績証明書
- ④ 大学を卒業した者と同等以上の学力があることを証明できる書類（例えば研究論文、特許公報、英語能力の証明書、各種資格取得証明書、国際的活動経験や実務経験を証明する書類等）
- ⑤ 志望理由書（A4判用紙1枚（1,000字程度）、博士後期課程進学の有無も記入してください。様式自由。）
- ⑥ 出願資格事前審査結果通知用封筒（封筒（長形3号）に宛先を明記し、郵便切手82円分を貼ってください。）

(2) 事前審査受付期間

平成30年1月4日（木）から1月10日（水）午後5時まで

（郵送の場合も同日同時刻までに必着とします。）

(3) 事前審査の結果は、平成30年1月19日（金）頃に、本人宛てに通知します。

4. 願書受理期間

平成30年1月22日（月）から1月26日（金）午後5時まで

（郵送の場合も同日同時刻までに必着。）

5. 提出書類

出願者は次の書類を取りそろえ、願書受理期間に、理学部等事務部学生係へ提出してください。(郵送の場合は、必ず書留郵便とし、封筒表面に「大学院理学府修士課程入学願書在中」と朱書してください。)

(1) 入学願書	本学府所定の用紙を使用してください。
(2) 履歴書	
(3) 受験票	
(4) 卒業(見込)証明書 又は学位授与(見込)証明書	出身大学が発行するもの、又は大学評価・学位授与機構が発行する学位授与(見込)証明書 (注) 出願資格(9)(10)又は(11)により出願する者は除きます。 ※九州大学理学部在籍中で平成30年3月卒業見込みの者又は九州大学理学部卒業者は提出不要です。
(5) 成績証明書	出身大学長(学部長)が発行するもの (注) 出願資格(10)により出願する者は除きます。 ※九州大学理学部在籍中で平成30年3月卒業見込みの者又は九州大学理学部卒業者は提出不要です。
(6) 写真2枚	正面上半身無帽で出願前3ヶ月以内に撮影したものを入学願書、受験票の所定の箇所に貼付してください。
(7) 入学検定料原符 (検定料30,000円)	入学検定料30,000円を本要項に綴込みの「振込依頼書」*を用いて納付し、入学検定料原符を提出してください。
(8) 受験票返送用封筒	郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手362円分(速達料金を含む)を貼った定形(長形3号)封筒(受験票は、2月2日(金)頃発送予定)
(9) 住所票	本要項に綴込みの用紙(シール)に志願者の住所(入学願書の記載と同じ)・郵便番号・氏名・志望専攻を記入してください。
(10) TOEIC又はTOEFLの 成績証明証の複写	併せて、受験時に成績証明証の原本を持参してください。(願書提出時に成績証明証が間に合わない場合も同様、受験時に持参すること。) <u>受験時に原本を持参しなかった場合、英語の成績は0点とします。</u> なお、添付した成績証明証のコピーの得点より高得点の原本がある場合には、当日原本と差し替えることができます。 詳しくは8. c. TOEIC・TOEFLに関する注意事項を参照してください。
(11) 卒業研究論文又はこれに相当するもの	平成30年2月9日(金)午後5時までに理学部等事務部学生係宛てに提出してください。(郵送の場合は書留郵便にしてください。)

* 本要項に綴込みの振込依頼書(「九州大学」入学検定料)の太枠で囲まれている記入欄に必要な事項を全てボールペンで正確・明瞭に記入し、A・B・C票を切り離さずに銀行へ持参してください。振込を済ませたら、銀行窓口で返還された書類のうち「九州大学」入学検定料振込金受付証明書(C票)を入学検定料原符の裏面の入学検定料振込金受付証明書貼付欄に貼付し、表面に、専攻名・住所・氏名を記入し、出願書類と同封してください。記入の際は、別添の振込依頼書(「九州大学」入学検定料)の記載例及び入学検定料原符・C票「九州大学」入学検定料振込金受付証明書貼付欄の記載例を参照し記入してください。

○ ゆうちょ銀行・ATM・インターネットでの振込みはできません。

なお、三井住友銀行本支店にて振込みをする場合の振込手数料は無料となりますが、他行から振込む場合は、振込手数料は出願者が負担することになります。

○ 振込みは「電信扱」に限ります。

※入学検定料の支払いについては、上記の銀行振込みのほか、コンビニエンスストア又はクレジットカード等の決済による支払いも可能です。詳細は、「九州大学コンビニエンスストア・クレジットカード・中国決済での

入学検定料払込方法」をご確認ください。

(注意) その他必要事項が「8. 出願者に対する注意事項」に記載されているので、必ず指示に従ってください。

6. 選抜方法

日 時 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 午前 9 時から

場 所 九州大学大学院理学府 (伊都キャンパス)

※卒業研究又はこれに相当するものの口頭発表 (質疑応答を含めて 20 分程度、液晶プロジェクター使用可) とその内容に関する基礎事項および修士課程の研究を行う上で必要な科目に関する基礎事項について口頭試問 (約 1 時間以内) を行い、合否を判定します。

※当日持参の TOEIC 又は TOEFL のスコアの原本をもって英語の成績とします。(8. 出願者に対する注意事項を参照してください。)

7. 合格者発表

平成 30 年 3 月 9 日 (金) 午前 10 時

伊都キャンパスのウエスト 1 号館 C 棟 2 階エントランスホールの掲示板に合格者の受験番号を掲示し、合格者宛て「合格通知書」を「住所票 (合格発表用)」に記載された住所へ郵送します。

また、理学府のホームページにも合格者の受験番号を掲載します。

なお、合格、不合格についての電話による問い合わせには一切応じません。

8. 出願者に対する注意事項

- a. 地球惑星科学専攻の研究グループのうちから、第 1, 第 2 志望を指定することができます。
- b. 必ず出願前になるべく早く理学府地球惑星科学専攻長 (Email: senkocho@geo.kyushu-u.ac.jp) に出願を予定していることを連絡してください。
- c. TOEIC・TOEFL に関する注意事項
 - (1) TOEIC 又は TOEFL の成績証明証の発行が願書提出期間に間に合うように受験してください。間に合わない場合は、少なくとも学力検査受験時に成績証明証 (原本) を持参できるよう受験してください。
 - (2) 大学院修士課程入学試験の受験を希望する者は、(ア) TOEIC Listening & Reading Test, (イ) TOEIC Speaking & Writing Tests, (ウ) TOEFL-iBT, (エ) TOEFL-PBT のいずれかを事前に受験してください。顔写真のない成績証明証 (TOEIC-IP テスト等) のコピー及び (ア) ~ (エ) 以外の成績証明証の提出は認めません。
 - (3) 大学院修士課程入学試験の日から遡って 3 年以内の TOEIC 又は TOEFL の成績証明証を有効とします。
 - (4) TOEIC・TOEFL の成績証明証は、受験者が自分に最も有利と考える 1 つを提出してください。なお、添付した成績証明証のコピーの得点より高得点の原本がある場合には、当日この原本を持参することにより、成績を差し替えることができます。出願時にコピーを提出・未提出の何れの場合も、受験時に原本を持参しなかった場合、英語の成績は 0 点としますので注意してください。
 - (5) 身体の障害等で TOEIC・TOEFL の受験が困難な場合は、事前に理学部等事務部学生係へ問い合わせてください。

9. 入学手続等

(1) 入学手続の際に納付する経費

入学料 282,000 円 (予定)

授業料前期分 267,900 円 [年額 535,800 円] (予定)

※上記納付金額は予定であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

(2) 手続関係

【入学手続書類の配布】

平成 30 年 3 月 9 日 (金) に、合格者宛て入学手続関係書類を「住所票 (入学手続用)」に記載された住所へ郵送します。

【入学手続期間】

平成 30 年 3 月上旬～中旬の間に期間を設定します。詳細は、入学手続書類でご確認ください。

10. 障害等のある入学志願者について

本学では、障害等のある者に対して、受験上及び修学上必要な配慮を行う場合があります、そのための相談を常時受け付けています。

受験上の配慮については、内容によって対応に時間を要することもありますので、出願前のなるべく早い時期に理学部等事務部学生係まで相談してください。

なお、平成 30 年 1 月 10 日 (水) までに連絡がない場合、受験上への配慮が講じられない場合もありますので、十分注意してください。

11. 長期履修制度について

本学では、学生が職業を有する、或いは障害がある等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度を導入しています。

この制度の適用を申請し認められた場合、標準修業年限分の授業料を長期履修の年数で除した額を毎年納入することになります。

なお、手続等の詳細は、入学手続時に通知します。

12. 備 考

- (1) 募集要項、出願書類などの郵送を希望する者は、郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手 250 円分を貼った角 2 封筒 (タテ 33cm×ヨコ 24cm) を同封して理学部等事務部学生係に申し込んでください。その際、「理学府修士課程学生募集要項請求 (第 2 次 : 地球惑星科学専攻)」と朱書してください。
- (2) 出願手続後の書類の変更、検定料の払い戻しはできません。
- (3) 理学府のホームページのアドレスは、<http://www.sci.kyushu-u.ac.jp> です。

○ 出願書類における個人情報の保護について

1. 出願書類に記載の個人情報は、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。
 - (1) 合格者の住所・氏名等を入学手続業務で利用します。
 - (2) 大学の成績証明書を、1年次における授業料免除等の修学支援業務で利用します。
2. 入学者選抜で利用した成績等の個人情報は、個人が特定できないように本学府における入学者選抜に関する調査研究で利用します。
3. 出願書類に記載の個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

<p>【提出先・お問い合わせ先】 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学理学部等事務部学生係 TEL. 092-802-4038 (ダイヤルイン)</p>

13. アドミッションポリシー

地球惑星科学専攻

1. 教育理念・教育目的

本専攻は、地球と太陽系の起源・進化過程、現在の姿、将来像および太陽・惑星・地球システムの複雑な相互関係を理解することをめざしています。そのために、太陽・惑星、惑星間空間、宙空、大気、海洋、地球表層、地球内部を対象として、幅広い視野に立った教育を行っています。きわめて複雑なシステムである地球惑星の起源・進化から、現状・未来にわたる広い時間スケールの現象から問題点を抽出する能力を養成します。その解決に向けた研究の立案・計画、調査・観測・実験・理論・解析にまたがる多彩な手法を学習します。これを通じて、学術的素養とともに多角的・学際的視野の育成を図ります。

2. 求める学生像

本専攻では、以上のような教育理念・教育目的に沿って、修士課程学生として次のような入学者を求めています。

- (1) 地球惑星科学の研究を進める上で必要な基礎学力を十分に習得している人。
- (2) 地球と太陽系の起源・進化、現状、未来および惑星・地球システムにおける自然現象の相互関係を理解しようとする探求心をもっている人。
- (3) 地球惑星の起源・進化から、現状・未来にわたる問題を自立的に研究して独創的・先進的成果を導き、新たな研究分野を開拓・創出しようとする意欲をもって研究者をめざしている人。
- (4) 次代を担う若者の教育・啓発ができる教育者および現代の高度科学技術社会の基盤を地球惑星科学の立場から担うことができる高度専門職業人として社会に貢献したいと考えている人。
- (5) 研究者、教育者、高度専門職業人として、地球惑星科学における幅広くかつ高度な専門性を活かして国際的な場で活躍したいと考えている人。

14. 九州大学大学院理学府（修士課程）概要

専攻	専門分野	研究グループ	研究内容	教員	
				教授	准教授
地球惑星科学専攻	流体圏・宇宙圏科学	太陽地球系物理学	太陽風-磁気圏-電離圏結合系における大域的プラズマ力学と各領域間相互作用過程の研究。		渡辺正和
		宇宙地球電磁気学	太陽面から太陽風・磁気圏・電離圏・地球圏までの電磁気現象やオーロラなど宇宙天気現象の全地球的観測・解析・理論研究。		河野英昭 吉川顕正
		大気流体力学	高度500kmまでの大気の研究。例えば大循環、惑星波、潮汐波、重力波等の力学、電離圏中の電離大気の構造と力学、対流圏・中層大気・熱圏・電離圏の相互作用の研究、および地球大気や惑星大気のふるまいについての地球流体力学的研究。	廣岡俊彦	三好勉信 Liu Huixin
		気象学・気候力学	気象、気候システムに関する研究、例えば熱帯気象、モンスーン、温帯低気圧、台風、シビアストーム、雲物理、異常気象、大気海洋相互作用、気候変動等の研究。	川村隆一	
	固体地球惑星科学	地球深部物理学	地震学、地球電磁気学、及び固体地球惑星物理学の研究。	金嶋聰	高橋太
		地球内部ダイナミクス	地球内部構造と地球内部ダイナミクスの研究。	*中田正夫	吉田茂生
		岩石循環科学	火山噴火のダイナミクス、岩石パターンの成因、マグマの発泡・結晶化・流動についての研究。変成岩を用いた地殻深部、上部マントルでの物理化学過程の研究。化学組成とそれに関連する理論に基づく岩石成因の解明。	寅丸敦志	池田剛
		地球進化史	堆積岩の形成過程及び島弧・変動帯の堆積作用とテクトニクスに関する地球史的研究。	*佐野弘好	清川昌一
		古環境学	古海洋と海洋沈降粒子の研究。		岡崎裕典
			第四紀古環境変動の復元に関する研究。		鹿島薫
	観測地震・火山学	地震及び火山現象の観測に基づく地震発生・火山噴火過程の研究。	※清水洋	※松本聡 ※松島健 ※相澤広記	
	太陽惑星系物質科学	惑星系形成進化学	理論物理学的手法、数値シミュレーション及び地球外物質の分析による太陽系及び系外惑星系の起源・進化の研究。	***関谷実	町田正博
		有機宇宙地球化学	有機物の前生命的合成や隕石有機物の解析による化学進化、古細菌の生物有機地球化学、有機物の同位体地球化学と生命環境。	奈良岡浩	山内敬明
		無機生物圏地球化学	地球表層の元素の循環と生物の関与に関する地球化学的研究、無機元素の挙動と濃集過程に関する研究。	赤木右	石橋純一郎
		地球惑星物質科学	地球惑星を構成する岩石鉱物の生成環境、形成機構、微細構造、高温高圧物性、内部構造形成過程の実験物質科学的研究。		久保友明
		地球外物質学	隕石・宇宙塵・探査機による回収資料の鉱物学的手法を用いた研究、およびその結果に基づいた太陽系形成過程や月・小惑星の表面での物質進化過程の研究。	◆野口高明	
	地球惑星博物学	古生物学分野：野外調査に基づく化石の古生態学およびタフオノミーの研究。	@前田晴良		

* は平成 30 年 3 月末日定年退職予定
 ** は平成 31 年 3 月末日定年退職予定
 *** は平成 32 年 3 月末日定年退職予定

修士課程は、*~**までを参考にすること。
 博士後期課程は、*~***までを参考にすること。

◆ 基幹教育院
 ※ 地震火山観測研究センター
 @ 総合研究博物館

15. 2つの専攻横断型プログラムについて

理学府では、各専攻での専門教育に加えて、専攻横断型プログラムがあり、これら2つを重ねた重層的な教育を行っています。ここではこの専攻横断型プログラムについて説明することになります。

理学府は、国際的な場で活躍できる広い視野を持った先端的研究者と高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門家を育成することを目的としています。この2つの人材養成目的に対応しているのが、2つの並列した専攻横断型大学院教育プログラム、「フロントリサーチャー育成プログラム」（以下、FRプログラム）と「アドバンストサイエンティスト育成プログラム」（以下、ASプログラム）です。理学府に入学した学生は、各専攻での専門的な教育に加え、全員がどちらかのプログラムに所属し、それぞれが目指す方向に合致した教育を受けることとなります。専攻における高度な専門教育と専攻を横断した人材養成目的に応じた教育との調和ある重層的な教育により、社会が要請する多様な人材の養成を目指そうというところが、本教育システムの最大の特徴で、このような教育システムは国内の大学院では類を見ないため、様々な方面から注目を集めています。

FRプログラムは先端的研究者を目指す学生用のプログラムで、博士後期課程までの5年間の教育プログラムです。研究者にとって必要な資質を伸ばすための授業等が配当されるとともに、指導体制にも工夫を加えています。このプログラムの大きな特色として、まず指導体制が挙げられます。研究指導は主指導教員だけでなく、他の複数の教員（他専攻教員を含む）を含めた「アドバイザーコミッティー」から受けることとなります。これは、複数の教員の指導を受けることで、広い視点から研究を行い、また学生自身にも広い視野を持ってもらうために取り入れた体制です。授業科目としては、広い研究背景のなかで、自ら課題を企画し問題を解決する能力の養成を目的とする「リサーチマネージメント」や、これまでの研究を調査し、それらを論理立てて記述する能力を育てる「リサーチレビュー」、研究計画を立て、それをうまく発信できる能力をつけるための「リサーチプロポーザル」などの科目があります。さらに英語での発表や論文作成の力をつける「英語表現」などの科目もあります。海外・国内での学会発表を積極的に支援したり、学生が中心となったシンポジウムも奨励しています。このようななかで、21世紀を担う先端的な科学者の養成を行おうとしています。

一方、ASプログラムは高度専門家を育成することを目的とし、その資質を伸ばすための授業等が配当されています。社会へ出る人が多いので、修士課程2年と博士後期課程3年のプログラムに分かれています。博士後期課程の内容はFRプログラムと共通な点が多いので、ここでは修士課程プログラムの主要なポイントだけを述べることにします。ASプログラムでも複数の教員からなる「指導教員チーム」が学生指導を行います。FRプログラム同様、複眼的な視点を身につけるようにしてほしいとの考えに基づいています。ただし、FRプログラムと違って、他専攻の教員は必ずしも含まれません。FRプログラム科目の「リサーチマネージメント」に対応する科目が「リサーチアドミニストレーション」で、セミナー等を通して問題点を自ら設定・解決する能力を養うことを目的としています。また「リサーチレビュー」も必修となっています。他のプログラム科目としては、「インターンシップ」、「広域基礎科学」、様々な分野の外部講師による「先端学際科学」などがあり、社会との接点を広く構築するために多様な科目が備えられています。さらに、年ごとに多彩に開設される大学院全体の共通科目から選択することも可能です。これらは大きな括りのなかで自由に選択することができ、様々な方面での高度専門家をを目指す学生個々の方向性に従い、色々な科目を組み合わせることで履修することができるように工夫されています。英語はアドバンストな「英語表現」（FR科目の「英語表現」とほぼ同じですが会話が重視されています）と一般的な「英語演習」のどちらかが選択できるようになっています。このように、カリキュラムに大きな自由度を持たせることで将来の職業を見越した科目選択ができるとともに、全体として高度専門家に必要な能力を涵養できるようになっています。